

もうひとつの盛り上がり

(45号 2014年12月23日)

第22回の萩大会に参加しました。この前も書きましたが、この大会は地元の方々の熱烈なご支援で今日まで来ていることを再度感じました。勿論、市バスケットボール協会などバスケットボール関係者の方々のご協力もありますが、同時に行政を含めた幅広い方々に関心を持ってもらい、開会式には毎回市長さんをはじめ議員さん、小学校の校長先生方などが参加して下さいます。本当に市を挙げて歓迎という雰囲気なのです。

自然、そのような空気はミニバスの各チームにも伝わっています。秋の交歓会（地区予選会）で勝って何が何でも萩大会に参加したいというチームがたくさんあるのです。萩大会があこがれの大会に育ったのも関係者のご支援・ご協力のお陰だと感謝しています。

実際のゲームの方ですが、こちらも熱い試合が続きました。外は雪が降る寒い日でしたが、体育館の中は大変盛り上がった大会でした。今回のコラムではゲームのことを述べるのではなく、昼の休憩を挟んで行われた「フリースロー大会」について書いてみたいと思います。



このフリースロー大会はその開催趣旨に全てが言い表されていると思います。参加資格は、誰でもよい。たとえベンチに入れなくて観客席で応援している子供でも、地元のお手伝いの子供でもよいとなっているのです。この萩大会には出られなかったけど、一日中テーブルオフィシャルをしたり、点付けをしたりする人も参加できるのです。

何年も続いているこのフリースロー大会、子供たちは要領を得ています。だから、上手に集合し、順にシュートを打っていきスムーズに流れます。

このフリースロー大会で気づいたのは、いつの間にかギャラリーに座っていたたくさんの人たちが前へ前へと詰めていき最前列の席で応援していることです。1本シュートを打つ度にみんなの声援が生まれれば大きな歓声に変わります。私がみるに、子供たちも大人もこのフリースロー大会を楽しみにしているようです。

チームによっては、ゲームの中でもフリースローの確率がとても高いところがあり、いつも感心してみています。私などコーチとして教えていた時は「よく狙って打て」とあまり役に立たないことばかり言っていました。シュートがよく入るチームの指導者はもっと具体的で役に立つアドバイスをしているのではないかと思います。